

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290700089		
法人名	社会福祉法人白寿会		
事業所名	平戸荘第二グループホーム		
所在地	長崎県平戸市紐差町494番地		
自己評価作成日	令和5年8月20日	評価結果市町村受理日	令和5年10月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和5年10月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は広々とした敷地にあり、花火や素麺流し等、戸外の行事活動が行いやすい環境です。ご利用者の皆様には、季節感を感じて、楽しんでいただける活動を毎月計画しています。紐差町の中心にあり、学校、病院、寺社教会、役所など地域資源を活用しやすい利点があります。協力病院は地理的にも近く、入退院の支援、退院後のリハビリ計画、病状説明等情報交換がしやすい関係です。敷地内には同法人の事業所が多数あり、緊急時、災害時の応援体制や、施設退所後の受け入れの連携も取れています。職員は、施設内研修の中で、虐待や拘束、ハラスメント、感染や認知症について基本的な事を学ぶと共に、今年度から外部講師を招き、白寿会全体で「科学的介護」の研修を4年計画で始めました。今年度は介護倫理について「根拠を知り、人として正しい事をする」学びを深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの敷地に隣接して、同法人が運営する特別養護老人ホーム、デイサービス事業所があり、周囲は自然に囲まれた長閑な環境にある。法人全体として4年間に渡る計画を作成し、今年度は外部講師を招いて科学的介護の実践のためスタッフトレーニングに取り組んでいる。毎回、テーマに沿った研修を管理者が受講し、その後は、職員へ伝達講習や、パソコン、スマートフォンにより動画を視聴し、学んだ内容はアウトプットシートに残し研鑽している。年度末には入居者状況、介護状況、事故に関する報告・統計、年間内部・外部研修の実施、各委員会ごとの目標と反省点をまとめ事業活動内容を明確にしている。今年度は、虐待、ハラスメントについても、勉強会で取り上げ、委員会でも繰り返し職員の意識を高めている。町社会福祉協議会と連携し、竹細工を作っている地域の方を招いて交流したり、地元出身力士と交流するなど、地域に根差した活動を展開されているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: きずな)	実践状況(ユニット名: ころ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝のミーティング時に、職員全員で法人理念と、第二GHの宣誓を唱和している。 声に出して唱和することで、毎日、内容を再確認している。秋からは「法人秩序」も遵守していく	管理者、職員はミーティング時に理念と、第二グループホーム宣誓を声に出して読み上げて再確認している。今秋からは、さらに「法人秩序」として、プロして行うべきことの決まりを掲げて実践していく予定。	フロアには法人理念とグループホームの宣誓を掲げ、毎朝のミーティング時に唱和している。宣誓内容に沿った日々の支援に繋げ、更に今秋より「法人秩序」を掲げ、遵守して実践に繋げるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染拡大の懸念から、地域に出向いての、交流が積極的に行えていない。 感染症が落ち着いた合間には、町協会の仲介で、竹細工を作っておられる方を招いての交流や、地元出身力士との交流ができた。近所の美容院にパーマをかけに行ったり、白髪を染めに行って会話を楽しむことはできた。	学生の職場体験や、実習、ボランティアの受け入れが出来なかった。 施設の庭から、地域行事の祭りの神輿を見て声掛けしたり、地域の教会婦人部からクリスマスカードが届いたり、中学生から手作りの雑巾が届いたりしている。神父様の訪問だけは、体調観察しながら、毎月短時間だが、個別に対応してきた。	コロナ禍以前のように、小中学校の職場体験の受け入れはできていない。尚、地域の防災ネットワークとの繋がりや、町協議会の協力を得てホームに竹細工職人を呼び、竹とんぼを飛ばすなど入居者と交流する機会を設け意欲の向上を図るなど地域に根付いた活動を展開している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	受診の付き添いの際、施設の制服を見て、認知症の方への接し方や、介護サービスの利用方法、車椅子の使い方などを尋ねられる時があり積極的に知らせている。中部地区の認知症サポーター養成講座に協力する体制出来ている。	受診の付き添いの際、施設の制服を見て、認知症の方への接し方や、介護サービスの利用方法、車椅子の使い方などを尋ねられる時があり積極的に知らせている。中部地区の認知症サポーター養成講座に協力する体制出来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催してきたが、コロナ感染が危ぶまれる時は、書面会議を行ってきた。委員の皆様、ご家族の意見は全職員に周知させサービス向上に繋がるように努めている。転倒の事故は仕方がないが、誤薬の事故は絶対にあってはいけないとの意見あり。毎回事務委員会で確認し合っている。	2か月に1回の開催も、感染が広がって居る時は書面会議を行ってきた。集会会議の時に家族への呼びかけするが、平日である為か参加者が少ない。会議の資料や、議事録、家族や委員の皆さんの意見は全職員に周知させて、解決策や対応についても周知させ、サービス向上に活かすよう努めている。	コロナ禍により運営推進会議は対面会議にて実施している。メンバーは、市職員、地域住民・役員4名とホームの関係者で構成し、事前に各メンバーから意見がもらえるよう資料を送付している。会議開催時にはメンバーより意見や提案が出され活発な会議となっている。詳細に質疑応答内容が分かる形で議事録に残し、その内容は職員へ周知すると共に家族へも送付している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: きずな)	実践状況(ユニット名: ころ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険班担当者は、運営推進会議に毎回参加していただき、情報交換の場になっている。市役所からの連絡は、メールで届いているが、大切な内容は電話で情報をもらうこともある。今回、科学的介護の取り組みについても意見交換を行った。	介護保険班担当者は、運営推進会議に毎回参加していただき、情報交換の場になっている。市役所からの連絡は、メールで届いているが、大切な内容は電話で情報をもらうこともある。今回、科学的介護の取り組みについても意見交換を行った。	管理者は行政の介護保険班職員との情報交換や、障害者支援班の窓口に出向いて手続きを行ったり、福祉医療費、要介護認定更新等の手続きに支所へ出向いている。権利擁護や金銭・通帳管理について社会福祉協議会との繋がりや地域包括支援センターと空床状況や入居者の紹介を受ける等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロ」を掲げてケアを行っている。日中は玄関も、居室も施錠していない。委員会や勉強会を通じて、繰り返し意識を高めていくように努めている。 夜間の転倒防止の為、家族の同意を得て、センサーマット使用している方がいる。	身体拘束しないケアの実践に努めている。夜間帯の転倒防止目的で、家族の同意を得てセンサーマットを使用しているご利用者がいる。言葉や態度で抑制しないように、委員会の時に確認し合っている。	ホームは概ね月1回、身体拘束防止・虐待防止委員会を開催している。同委員会は管理者・ユニットリーダー・各ユニット職員で構成し、身体拘束や虐待について意識を高められるよう事例検討を行うなど取り組んでいる。委員会の結果は全職員に周知しており、身体拘束・虐待防止への職員の意識は高い。	虐待防止に関する事項について運営規程に明記しているが、身体拘束防止に関する事項の記載はなかった。運営規程はホームの基本的かつ重要な事項を内外に示すものであり、身体拘束防止に関する事項も明記しておくことが望ましい。また、身体拘束や虐待について委員会議事録は内容が分かりやすいよう明確に分けて記録に残すことが望ましい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待、またハラスメントについても、勉強会で取り上げ、委員会でも繰り返し意識を高めるようにしている。自分自身が行わないことはもちろん、他者の行為も見逃してはいけないことを認識し合う。ご利用者には、丁寧な言葉かけをする事をルールとしている	虐待、またハラスメントについても、勉強会で取り上げ、委員会でも繰り返し意識を高めるようにしている。自分自身が行わないことはもちろん、他者の行為も見逃してはいけないことを認識し合う。ご利用者には、丁寧な言葉かけをする事をルールとしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ユニットの利用者がこのサービスを利用することになって、サービスの目的や援助の対象、内容などについて勉強会を行っている。	ユニットのご利用者の中に、サービスを利用している方はいないが、どのような方達に必要なのか、今後利用の際にスムーズに援助ができるように、目的、対象者、内容について勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: きずな)	実践状況(ユニット名: ころ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、書類を読み上げながら、わかりやすく説明するように心がけている。料金改定時や、加算変更の際は各家庭に、説明文を入れた手紙を送って、不明なことは、尋ねていただけるように環境を整えている。	契約時、書類を読み上げながら、わかりやすく説明するように心がけている。法人の別の事業所に入所申し込みされる方も多く、その際の手続きについても説明行っている。料金改定時や、加算変更の際は各家庭に、説明文を入れた手紙を送って、不明なことは、尋ねていただけるように環境を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは、面会時にゆっくり話せる機会が減ってしまったが(面会制限の為)、近況報告の電話をした時など、何か意見は無いかな尋ねている。ご利用者は、「特にないです」という返事がほとんどで、それは満足しているのではなく、遠慮したり、あきらめたりしているのではないかと捉え、やる気が持てるようなケアをして行きたい。	書面会議の前には、全家族にアンケート用紙と返信用の封筒を送って意見を伺った。台風後の報告をした際、自家発電機が無いことに対して、「購入して備えるべき」との意見を頂き、防災備品として購入した。内容に関しては、申し送りノートなど通して全職員で共有している。	職員は入居者自ら意見や意思の表出ができる場合は直接意向を聞き取り、困難な入居者には問いかけ方法を工夫している。家族から出された意見には主に管理者が対応してユニットリーダーにも伝達し、また、職員が本人や家族から聞き取った意見は申し送りノートに残して共有し、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議、個人面談、その他随時意見提案を聞く機会を設けている。今年度はご利用者の介護度も上がっており、お弁当を持つためのドライブを計画することで、より喜んでいただけるのではないかと提案あり、準備を進めて実行でき大変喜ばれた。夕方の素麺流し計画では、遅出を複数人出す勤務形態の提案が出ている。	全体会議、ユニット会議、個人面談、その他随時意見提案を聞く機会を設けている。最近では夜間ポータブルトイレ使用者が増えており、安全に使用するためには、スウィング式の介助バーが必要との声あり、また褥瘡予防の補助具を個人購入ではなく、施設備品として1セット揃えたいとの声を事務に相談して購入に至った	職員は全体会議、ユニット会議、個人面談のほか、いつでも入居者の支援に関して自分の意見を申し出ることができる。入居者の安全確保のための居室環境整備の方法や身体状況の悪化防止の取り組みなど多様な意見を出し合い実践に結びつけている。職員は外出や散歩等、思いついたことをすぐに行動に移すことができ、入居者の活動的な日常生活に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	Do-Capシートを記入し、面談する中で、個人が頑張ったとアピールしていることは認めさらに前進できるよう励ましている。 今年度は公休が年間3日増えたり、給与についても全体会議で説明があったが、事業所全体の職員の数が減少しており、働き手のモチベーションが下がる時がある。	Do-Capシートを記入し、面談する中で、個人が頑張ったとアピールしていることは認めさらに前進できるよう励ましている。 今年度は公休が年間3日増えたり、給与についても全体会議で説明があったが、事業所全体の職員の数が減少しており、働き手のモチベーションが下がる時がある。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: きずな)	実践状況(ユニット名: ころ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	外部の研修は少なくなっており、オンラインの研修を積極的に取り入れるべきだが、部屋環境と現場の職員の人数の問題で積極的に取り入れが出来ていない。今年度から始めた「科学的介護」に関しては、毎月テーマに応じた動画を視聴しトレーニングを受けている。介護倫理と並行して、管理者は部下の育て方も学ぶ	外部の研修は少なくなっており、オンラインの研修を積極的に取り入れるべきだが、部屋環境と現場の職員の人数の問題で積極的に取り入れが出来ていない。今年度から始めた「科学的介護」に関しては、毎月テーマに応じた動画を視聴しトレーニングを受けている。介護倫理と並行して、管理者は部下の育て方も学ぶ		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの間では、制度や取り組みについて、また中部事業所内の管理者間でも情報交換を行って、お互いの取り組みを検証し合ったりしている。他事業所との集まりも、徐々に行われる様になり、取り入れたい内容は自施設に持ち帰り、マニュアルの変更などに活かされている	法人内のグループホームとの間では、制度や取り組みについて、また中部事業所内の管理者間でも情報交換を行って、お互いの取り組みを検証し合ったりしている。他事業所との集まりも、徐々に行われる様になり、取り入れたい内容は自施設に持ち帰り、マニュアルの変更などに活かされている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のサービス事業所や担当ケアマネの情報を収集し、出来る限り面会に行ってお本人の不安な事や要望を聞くようにしている。生活歴や既往歴、職歴や趣味、家族構成などの情報を職員間で共有し、安心につながるように努めている	入居前のサービス事業所や担当ケアマネの情報を収集し、出来る限り面会に行ってお本人の不安な事や要望を聞くようにしている。生活歴や既往歴、職歴や趣味、家族構成などの情報を職員間で共有し、安心につながるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、不安に思っていることは無いか聞く際には、話しやすい雰囲気を作るように気を付けている。子供がおらず、兄弟は皆県外在住という利用者の、身元引受人の弟様は、入所申し込みの時から情報を伝えたり、困りごとを聞いたりしてきた。権利擁護のサービスを利用するなどして安心されている。	入居前に、不安に思っていることは無いか聞く際には、話しやすい雰囲気を作るように気を付けている。子供さんが外国在住の方は、事前に訪問して話す時間を設け「気になることがすべて解決できて安心した」と喜ばれた、現在もメールで近況やケアについての説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: きずな)	実践状況(ユニット名: ころ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の申し込みに来られた時点で、必要としている支援について話している。、市外の病院の受診が定期的にある方の受診方法について、介護タクシーの情報を集めたり、楽しみである散歩の付き添いについて、可能な範囲で継続できるよう努めている。	入所の申し込みに来られた時点で、必要としている支援について話している。 何より白髪染めを大事と思われる方には、外出困難なおり施設内での対応を検討したり、何故そこまで不安なのか話を傾聴するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活する中で、役割を持ってもらったり、出来る事、得意な事は手伝ってもらい、達成感を味わっていたようにしている。野菜づくりについては、助言をいただいている。	一緒に生活する中で、役割を持ってもらったり、出来る事、得意な事は手伝ってもらい、達成感を味わっていたようにしている。花苗植えの時には、根っこをほぐして植え付けると良いと助言をいただいて皆でそのように実践した。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	以前は、外出外泊が出来ていたが、近年は感染対策で、家族との関りが十分に取れていない。毎月直近の写真を送ると喜ばれて継続している。電話の取次ぎをしたり、手紙の代筆をして家族の存在が利用者の元気のもとになっていると伝えて、共に援助していく旨を話している。	以前は、外出外泊が出来ていたが、近年は感染対策で、家族との関りが十分に取れていない。毎月直近の写真を送ると喜ばれて継続している。電話の取次ぎをしたり、手紙の代筆をして家族の存在が利用者の元気のもとになっていると伝えて、共に援助していく旨を話している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染が拡大している時は、面会や外出を制限しているため、希望通りに対応できないことが多かった。時間や、場所を工夫しながら、地元の寺社にお連れしたり、衣類を買いに行ったり出来る範囲で行っている。	感染が拡大している時は、面会や外出を制限しているため、希望通りに対応できないことが多かった。時間や、場所を工夫しながら、神父様の訪問や、郵便局、美容院への外出を出来る範囲で行っている。	入居者の習慣や生活歴を把握し、ホームに入居した後も馴染みの関係が途切れないよう支援している。地域の教会の神父がホームへ訪問したり、個別支援にて本人が希望する場所へ同行したり、自宅周辺にドライブに行くなど支援しており、管理者や職員は柔軟な対応に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: きずな)	実践状況(ユニット名: ころ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方達には、会話のできるスペースを準備し、話し相手のいない方は、参加できる場へ誘導して新しい仲間づくりができるようにしている。食事が終わっても話が弾んで、しばらく談笑してから歯磨きに行く姿が見られる。	気の合う方達には、会話のできるスペースを準備し、話し相手のいない方は、参加できる場へ誘導して新しい仲間づくりができるようにしている。テーブルとは別の方達とソファで話す姿も見られる。目の不自由な方が、作業の時など輪に入り辛い時があり課題である。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退居された方には、その後の状態など尋ねて、サービスについての相談にのったりしている。退居された家族から、別の方の事で相談の電話があつこともある。街中であつた時も状況を聞いたりして、話しやすい関係は続けている。	長期入院で退居された方には、その後の状態など尋ねて、サービスについての相談にのったりしている。退居された家族から、別の方の事で相談の電話があつこともある。街中であつた時も状況を聞いたりして、話しやすい関係は続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者会議で意向をはっきり言える方は、その話をしっかり聞いて、うまく伝えられない方は、本人がどう思っているのか、普段の会話や様子から気持ちを汲み取るようにしている。職員本位になっているところも見受けられる。	担当者会議で意向をはっきり言える方は、その話をしっかり聞いて、うまく伝えられない方は、本人がどう思っているのか、普段の会話や様子から気持ちを汲み取るようにしている。職員本位になっているところも見受けられる。	入居者によっては担当者会議に参加する場合もあり、直接自分の意向を述べる機会がある。意思を伝えることが困難な入居者には職員が日頃の会話や動作、家族との面会時や電話連絡時に意向を確認し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント作成にあたっては、家族、入居前に利用していた事業所、担当ケアマネから情報を収集している。本人が覚えているようなら、本人からも話を聞いている。	入居時のアセスメント作成にあたっては、家族、入居前に利用していた事業所、担当ケアマネから情報を収集している。本人が覚えているようなら、本人からも話を聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: きずな)	実践状況(ユニット名: ころ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設独自で個人の日課表を作って、個人の一日の過ごし方や嗜好等把握できるようにしている。また日誌や申し送り帳、ミーティングなどで、心身の状態なども情報を共有出来るようにしている。	施設独自で個人の日課表を作って、個人の一日の過ごし方や嗜好等把握できるようにしている。また日誌や申し送り帳、ミーティングなどで、心身の状態なども情報を共有出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議に家族が参加できていない。意向の確認は面会時や電話で行っている。ご本人にも意見を聞くが、「今のままで良い」と言う返事がほとんどなので、もっと期待が持てる生活の場になるような環境づくりが必要か。職員の気づきや、生活の課題が中心のケアプランになっている。	担当者会議に家族が参加できていない。意向の確認は面会時や電話で行っている。ご本人にも意見を聞くが、「今のままで良い」と言う返事がほとんどなので、もっと期待が持てる生活の場になるような環境づくりが必要か。職員の気づきや、生活の課題が中心のケアプランになっている。	職員は入居者ごとの担当制で受け持ち、居室の環境整備等のほか、介護計画作成に至るまでのモニタリング等を実施している。担当者会議に家族は参加していないが、入居者の能力に応じて入居者本人が参加しており、計画作成担当者は、入居者の意見や職員の気づきを活かした介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌に個人の記録は毎日行っている。毎月月末にモニタリングも行い、ユニット会議の時にも、その時々々の状態や課題を挙げて、ケアの見直しを行うこともある。内容は皆で共有して、ケアプランに反映させている。	日誌に個人の記録は毎日行っている。毎月月末にモニタリングも行い、ユニット会議の時にも、その時々々の状態や課題を挙げて、ケアの見直しを行うこともある。内容は皆で共有して、ケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所全体で感染防止対策がとられており、外出関係のサービスが十分にできなかったが、娘様から、母が息を引き取る前に父と合わせたいとの依頼あり、病院にお連れして喜ばれた。葬儀の会場にも、人が集まる前にお連れして、ゆっくりお別れができたと感謝の言葉をいただいた。	市外の病院受診に関しては、家族に対応をお願いしており、予約の関係上、早朝に出発したいと希望あった時は、両ユニットの夜勤職員で業務を調整しながら、朝のご飯を早く出して、準備万端整えて出発できるように対応している		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価		
			実践状況(ユニット名: きずな)	実践状況(ユニット名: ころ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くに学校があるが、子供たちとの交流が近年は出来ていない。公民館や教会婦人部、神父様、図書館からの配本サービス等、訪問してもらえる関わりは継続して出来ている。地域の美容院に出かけ、好きなカラーで髪を染めてもらうことを楽しみにされている方もいる。	近くに学校があるが、子供たちとの交流が近年は出来ていない。公民館や教会婦人部、神父様、図書館からの配本サービス等、訪問してもらえる関わりは継続して出来ている。近くの薬局で、店の人に尋ねながら、のど飴や健康茶等の買い物を楽しみにされている方もいる。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの市民病院がかかりつけ医の方がほとんどで、定期の受診時、緊急時、夜間の変動時に対応してもらえる。家族希望時は他の眼科、皮膚科、耳鼻科等の受診も対応できるが、市外の病院の受診に関しては、家族に協力を依頼している。家族不在の方は、職員で対応することもある	近くの市民病院がかかりつけ医の方がほとんどで、定期の受診時、緊急時、夜間の変動時に対応してもらえる。家族希望時は他の眼科、皮膚科、耳鼻科等の受診も対応している。義歯の不具合の訴えある方で、家族からは何度も義歯を作りなおしているの、行かなくて良いと言われ、両者に話を聞いて、調整行うと言うことで了解得て受診援助した。	入居者は当地域出身の住民が多く、入居前からもとと平戸市民病院をかかりつけ医としており、緊急時等も円滑に連携・対応している。当病院連携室の看護師と協力し連携が密に取れており、管理者をはじめとして職員は医療に関し安心して相談や報告ができています。耳鼻科等、他科への受診は家族の協力を得ることもあるが、状況に応じて職員が同行支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員の中に准看護師の資格取得者が居て、弁当を持ってのドライブには必ず同行したり、日常の相談などしているが、主な対応については、特養の看護師の指示を仰いだり、協力病院を受診したりしている。その際、日常の情報や変化について報告したり、必要時にはバイタルの一覧表など持参している。	介護職員の中に准看護師の資格取得者が居て、弁当を持ってのドライブには必ず同行したり、日常の相談などしているが、主な対応については、特養の看護師の指示を仰いだり、協力病院を受診したりしている。その際、日常の情報や変化について報告したり、必要時にはバイタルの一覧表など持参している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院後は、地域連携室や病棟師長と連携を取りながら、病状について把握するよう努めている。病院側からも、食事形態の変化に伴い施設で対応が可能かどうか等の問い合わせもある。関係性はよく、情報も得やすい環境にある。	入院後は、地域連携室や病棟師長と連携を取りながら、病状について把握するよう努めている。家族に病状説明がある時は、了解を得て同席し、施設の役割についても確認している。関係性はよく、情報も得やすい環境にある。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: きずな)	実践状況(ユニット名: ころ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	最期までの看取りの対応はできないことを入所時に家族には話している。GHで可能なところまで過ごして退居し、病院に入院した後、在宅で看取りを行うと退院した方には、施設で過ごしていた時の情報を提供したりして、最期の日まで家族とは繋がっていた。	最期までの看取りの対応はできないことを入所時に家族には話している。施設での見取りを希望される方は、特養に入所申し込みしていただき、その後の連携を取りながら、入所できるよう支援している。	入居時に本人や家族へ経口栄養摂取ができなくなった場合は他施設や医療機関へ転院となることを説明している。入居者の状態に応じて移設を検討する場合は、早めに同法人の特別養護老人ホームへ入居者情報を提供し、円滑に移設できるよう連携を図っている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時には、マニュアルに沿って行うよう申し合わせている。研修は定期的に行っているが、休みの職員は、資料確認のみとなっているので、十分とは言えない部分がある。AEDの使用方法、心肺蘇生法はDVD視聴を行い、自施設のAEDに関しても使用方法を周知している	利用者の急変時や事故発生時には、マニュアルに沿って行うよう申し合わせている。研修は定期的に行っているが、休みの職員は、資料確認のみとなっているので、十分とは言えない部分がある。AEDの使用方法、心肺蘇生法はDVD視聴を行い、自施設のAEDに関しても使用方法を周知している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難訓練(日中、夜間)、通報訓練、机上での勉強会を行っている。水害、地震等自然災害についても、施設の弱点について理解し、対応策を検討している。被災した際は白寿会内の他施設で受け入れる体制は出来ている。火災未然防止対策は、タコ足配線禁止、コンセント部分の埃注意、電気製品の劣化早期発見など。	避難訓練(日中、夜間)、通報訓練、机上での勉強会を行っている。水害、地震等自然災害についても、施設の弱点について理解し、対応策を検討している。被災した際は白寿会内の他施設で受け入れる体制は出来ている。火災未然防止対策は、タコ足配線禁止、コンセント部分の埃注意、電気製品の劣化早期発見など。	併設の特別養護老人ホームと連携を図り、調理場から出火を想定した避難訓練を実施している。また、特別養護老人ホームの避難訓練に合わせてホームが延焼した夜間想定避難訓練を実施している。訓練実施内容、反省点、気づきについて訓練時の様子が分かる写真と共に記録に残している。また、必要に応じて訓練マニュアルを改定している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今年度から法人全体で、段階を追って学んでいる「科学的介護・職業倫理」のトレーニングも、ご利用者一人一人を尊重する意識を高める学びになっている。「介護の質は言葉遣いから始まる」という内容に納得はしているものの、個人の認識に差があり、まだ完全に達成できているとは言えない。	今年度から法人全体で、段階を追って学んでいる「科学的介護・職業倫理」のトレーニングも、ご利用者一人一人を尊重する意識を高める学びになっている。「介護の質は言葉遣いから始まる」という内容に納得はしているものの、個人の認識に差があり、まだ完全に達成できているとは言えない。	ホームでは科学的介護・職業倫理のトレーニングの取り組みで、介護倫理について学ぶほか、接遇マナーに関する内部研修を実施している。特に言葉遣いについて職員の意識向上に努めている。尚、コロナ禍で外部研修を受ける機会が減少しており、年間研修計画に取り入れて実施することが今後の課題である。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: きずな)	実践状況(ユニット名: ころ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が意向や、希望を言いやすい声かけや、環境づくりは行っている。声に出して言える方と、思っているけど言えない方というと思うので、言えない方の思いを引き出す関わりがもっと必要と思う 外出など、感染予防で実現しにくい支援に関しては、代替の活動を工夫している。	本人が意向や、希望を言いやすい声かけや、環境づくりは行っている。声に出して言える方と、思っているけど言えない方というと思うので、言えない方の思いを引き出す関わりがもっと必要と思う		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前の生活のペースを土台にして過ごしていただけるように支援している。 食事や入浴の時間に関しては、ご利用者が「その時間」と捉えて最初から合わせてもらっている状況。全盲の方は、入居前の食事やおやつ摂り方について、施設の日課とはかなり違っているが、体調に問題がない範囲で対応している。	入居前の生活のペースを土台にして過ごしていただけるように支援している。 食事や入浴の時間に関しては、ご利用者が「その時間」と捉えて最初から合わせてもらっている状況。活動への参加は無理強いせず、気分が乗った時のみ参加される方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出制限が緩和された時には、希望の美容室に行ってパーマをかけたたり、好みの色に毛染めをしたりしてきた。季節の洋服を見に行き自分で選んで購入したり、毎朝眉墨を欠かさず使う方には、居室に鏡を準備して、その時間をゆっくりと過ごしていただいている。	外出制限が緩和された時には、希望の美容室に行ってパーマをかけたたり、好みの色に毛染めをしたりしてきた。通販で化粧水を購入する方の支援や、写真撮影の時に、希望者に口紅を塗って喜ばれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各人食材のアレルギーや嗜好の調査をして、代替食の提供をしている。年に数回は弁当にしたり、戸外で食べたりして喜ばれている。毎月、行事食と称して季節感のあるおやつを、一緒に作って食べる活動を行っている。季節を感じてもらえるように、落や豆、タケノコ、トウモロコシ等の皮むきも手伝ってもらっている。	各人食材のアレルギーや嗜好の調査をして、代替食の提供をしている。年に数回は弁当にしたり、戸外で食べたりして喜ばれている。毎月、行事食と称して季節感のあるおやつを、一緒に作って食べる活動を行っている。季節を感じてもらえるように、落や豆、タケノコ、トウモロコシ等の皮むきも手伝ってもらっている。	食事は隣接する特別養護老人ホームの栄養士が献立表を作成し、ホームの担当職員が人数分の食材を地元の食品店、精肉店、鮮魚店へ発注して配達してもらい、新鮮で旬のものを取り入れて食事を提供している。外出時にはお弁当をつくり、フキやワラビなど季節感のあるおかずを取り入れるなど、入居者が以前口にしていた懐かしい味を楽しめるよう工夫している	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: きずな)	実践状況(ユニット名: ころ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の栄養士が作成した献立表に基づいて毎日の調理を行っている。水分は十分に摂取できていない方もいて、頻回に声掛けして回数を多く飲んでもらったり、好きなドリンクを購入して勧めたりしている。	特養の栄養士が作成した献立表に基づいて毎日の調理を行っている。水分は十分に摂取できていない方もいる。体操等集まった時に水分摂取の大切さを繰り返し伝え、頻回に声掛けして、数口ではあるが、回数を多く飲んでもらうようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員洗面台に移動して歯磨きを行っている。各自出来るところは行っていただき、仕上げ磨きの必要な方は行っている。「自分で出来た、大丈夫」と言って仕上げ磨きは不要と言われる方の状態が把握できていない。	毎食後、全員洗面台に移動して歯磨きを行っている。各自出来るところは行っていただき、仕上げ磨きの必要な方は行っている。夜間は洗浄剤に義歯を浸して清潔保てるようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意便意の訴えの無い方も、定時にトイレ誘導していたところ、尿意便意を訴え、最近は間に合うこともある。排泄の状況に応じて、使用するパットの種類も、ユニット会や担当者会議で検討しなおしている。	個人の排泄の状況に応じて、使用するパットの種類や、トイレ誘導の時間など、ユニット会や担当者会議で検討して、気持ちよく、パットの無駄がなく過ごせるように支援している。	職員は排泄チェック表を用いて記録に残し、排泄のタイミングを把握してトイレでの排泄に取り組んでいる。入居者の排泄用品の使用には職員間で検討し、家族の経済的負担を考慮して支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方が多く、水分摂取をすすめたり、朝に冷たい牛乳を提供したり、運動に誘うなど声掛けしているが、ほとんど下剤服用して排便をコントロールしている現状である。医師から調整してよいと指示受けているので、排便の有無の確認をしながら調整している。	便秘気味の方が多く、水分摂取をすすめたり、朝に冷たい牛乳を提供したり、運動に誘うなど声掛けしているが、ほとんど下剤服用して排便をコントロールしている現状である。医師から調整してよいと指示受けているので、排便の有無の確認をしながら調整している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: きずな)	実践状況(ユニット名: ころ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本週3回の入浴だが、委員会、行事の入る週は2回の入浴となっている。曜日や時間は施設で取り決めているが、事情があつて入れなかった時や、本人の希望があつた時は柔軟に変更している。個人の好みの湯温や季節の湯の実施等喜んでもらえるように対応している。	基本週3回の入浴だが、委員会、行事の入る週は2回の入浴となっている。曜日や時間は施設で取り決めているが、事情があつた時は柔軟に変更している。冬場は、入浴の希望回数のアンケート実施して、意向に沿って対応した。	毎日入浴準備を行っており、入居者が週3回は入浴できるよう支援している。入浴時に皮膚が潤う作用がある柑橘系果物を使用したり、菖蒲湯等を浴槽に入れるなど入居者が心地良い気分になれるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で一人ゆっくりくつろいだり、フロアで皆さんと会話をして楽しんだり、それぞれ好きなように移動してもらっている。居室は気持ちよく過ごせるように、湿度温度を調整している。	居室で一人ゆっくりくつろいだり、フロアで皆さんと会話をして楽しんだり、それぞれ好きなように移動してもらっている。居室は気持ちよく過ごせるように、湿度温度を調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は自分の担当のご利用者の薬について把握して、体調の変動について受診時主治医に相談している。朝方、血圧が下がっていた利用者は定時薬に降圧剤が入っており、服用せずに電話で医師の指示を仰いだ	職員は自分の担当のご利用者の薬について把握して、体調の変動について受診時主治医に相談している。朝食後に血糖降下剤を服用中のご利用者の、食事摂取量については気を付けるよう周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の作業の手伝い(食材の皮むき、洗濯物たたみ等)や、行事食の手伝いなど、今までの経験を活かして無理のない範囲で手伝ってもらっている。目の不自由な利用者の訴えを、近くでいつも聞いてくださる方が居て、聞いてもらって安心し、頼られて存在意義を感じておられる様子。	日常の作業の手伝い(食材の皮むき、洗濯物たたみ等)や、行事食の手伝いなど、今までの経験を活かして無理のない範囲で手伝ってもらっている。散歩やドライブ等戸外に出ることで気分転換できるよう、出来るだけ時間を持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価		
			実践状況(ユニット名: きずな)	実践状況(ユニット名: ころ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人が集まる場所への外出支援が、思うようにできていない。感染が落ち着いている時には、美容院や衣類購入、教会や、地元の神社、自宅に着替えの衣類を取りに行くなどの外出ができた。	人が集まる場所への外出支援や、家族や地域の方と一緒にいう支援が思うようにできていない。感染が落ち着いている時には、郵便局にお小遣いのお金を引き出しに行ったり、空き家になっている自宅へ行ってみたり、散歩に出たりすることはできた。	ホームは行事計画を立て、外出を支援している。行事計画には無くてもその日の天候が良ければ周辺を散歩したりドライブに出かけ、また、入居者の希望に応じて買い物や、金融機関へ外出するなど柔軟に対応しており外出する機会に繋げている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室にお金を自己管理している方も数人おられるが、ほとんどの方が手元にお金を持っていない。衣類など買いに行った時は、会計は本人にしてもらっている。 施設の自販機が撤去されたので、自分で使う機会が減ってしまった。所持の希望あれば、家族の了解を得て対応している。	手元にお金を持って、孫にお年玉をあげるのを楽しみにしたり、財布にお金があるのを確認して安心している方もいる。金庫に預かっているが、必要時に出してほしいと言われ手渡している時もある。いずれのパターンでも家族に了解を得て行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を持っている方は、居室で自由に使用している。充電や使い方の援助行っている。贈り物が来てお礼を言いたい時など、固定電話を使って電話されている。はがきの返事を書きたいときは、はがきや切手の手配行ったり、代筆を頼まれた時は対応している。	個人で携帯電話を持っている方は、居室で自由に使用している。充電や使い方の援助行っている。携帯電話の無い方は娘様や甥様に電話をかけた希望ある時は固定電話を使用して話している。家族にも遠慮なく電話をかけてよいことを伝えている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のフロアは広々としており、温度湿度も都度調整している。季節の花を飾ったり、季節ごとの壁面飾りをして、季節感を感じられるようにしている。居室の窓も広く日が入って日中は明るい。毎朝、窓を開けて換気を行っている。	共用のフロアは広々としており、温度湿度も都度調整している。季節の花を飾ったり、季節ごとの壁面飾りをして、季節感を感じられるようにしている。居室の窓も広く日が入って日中は明るい。毎朝、窓を開けて換気を行っている。	ホームは2ユニットが横並びにあり、広々とした共有空間で、室内で運動会を開催する計画がある。吹き抜けの天井で解放的な環境の中で、入居者は思いおもいに過ごされている。床や廊下は頻回に拭き掃除し、手すり等は日に3回次亜塩素酸系液で拭き取るなど清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: きずな)	実践状況(ユニット名: ころ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事のテーブルは、会話が弾むようなメンバーにして、相性の悪い方とは、席が離れるようにしている。ソファを設置しており、くつろいだ雰囲気です話したり、一人ゆっくり座ったりすることができる	食事のテーブルは、会話が弾むようなメンバーにして、相性の悪い方とは、席が離れるようにしている。ソファを設置しており、くつろいだ雰囲気です話したり、一人ゆっくり座ったりすることができる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には荷物を自由に持ち込んで良いことを伝えているが、何の持ち込みもなく殺風景な部屋もある。写真など貼って、楽しい気分になれるよう工夫している。テレビを見る事が好きな方は、数人持ち込んで、見たい番組を好きなスタイルで見ている。	居室には荷物を自由に持ち込んで良いことを伝えているが、何の持ち込みもなく殺風景な部屋もある。写真など貼って、楽しい気分になれるよう工夫している。自宅で使っていたタンスなどの小さい家具を持ち込んでいる方もいる。	入居時に居室への持ち込み品について家族へ説明し、火気、刃物、高額現金以外は以前からの馴染みのものを持ち込むことができる。居室にはマリア像や使い慣れた家具等があり、入居者がこれまで大切にしてきたことを継続し、安心してホームでの生活が送れるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広いフロア内には手すりが設置され、つかまりながら移動ができるようになっている。トイレ内にも肘置きがあり、安定した座位で排泄ができる。居室でトイレを使用する際には、スウィング式の介助バーを設置している。	広いフロア内には手すりが設置され、つかまりながら移動ができるようになっている。トイレ内にも肘置きがあり、安定した座位で排泄ができる。居室でトイレを使用する際には、スウィング式の介助バーを設置している。		